

第75次印旛地区研究集会
情報・視聴覚研究部

研究主題

Canva を活用した授業・校務の改善

日時：令和7年8月19日
第2部会 成田市立神宮寺小学校
窪田 陽

1. 研究主題

Canva を活用した授業・校務の改善

1. 主題設定の理由

子どもたちの主体的な学びを深め、個別最適化された学びを実現するためには、デジタルツールを効果的に活用するスキルが不可欠である。「GIGA スクール構想の下での校務 DX について～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」の中では、校務情報化の課題として、「教育委員会ごとにシステムが異なり、人事異動の際の負担が大きい」とある。また教員側の ICT 活用能力には個人差があり、多忙な校務の中で新たなツールの習得に時間を割くことが難しいという現状も存在する。

このような中で、様々な自治体で導入されている Canva の活用に注目した。Canva は豊富なテンプレートと素材を提供し、デザインに関する専門知識がなくても、短時間で質の高い視覚資料を作成することができる。また、共同編集をすることも可能で、学級やグループでの共同的な学びのツールとしても使用することができる。Canva の特性を活かすことで、児童生徒の学習意欲や理解度を向上させる授業改善、そして教員の校務負担軽減による働き方改革への寄与が期待できると考え、本研究主題を設定した。

2. 研究仮説

授業・校務の効率化を図ることで、ICT の活用が進み、授業改善に繋がるだろう。

3. 研究の実際

(1) 授業での Canva の活用

私は、昨年度 2 年生の学級担任だった。担任当初は、Safari から検索をしたり、ロイロノートを使用して何かを作成したりといったこともあまりできない状態だった。そのような実態の低学年児童において、Canva を活用した事例を二つ紹介する。

① 観察カードの表紙作り

生活科の学習で野菜の観察を行った。それぞれがミニトマトやナス、ピーマンなどを育て、観察カードを作成していった。学習の最後に、Canva を活用して観察カードの表紙作りを行った。教師が表紙の型(図 1)を作り、学級の人気分ページを複製し、子どもたちと共有した。共有するときには、共有リンクをコピーし、Google classroom に貼り付け、そこから子どもたちが入れるようにした。出席番号をページの番号として、いつも自分の番号を編集するようにした。

初めての Canva だったので、自分の名前を入力することと画像を挿入することの 2 つができるようになることを目指

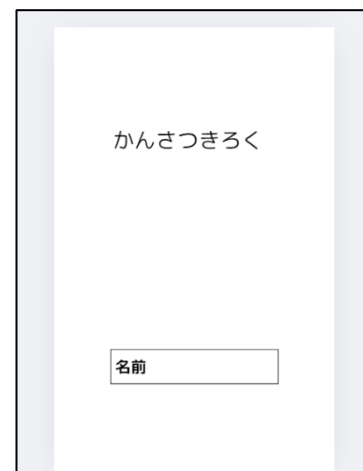


図 1 表紙の型

した。操作が慣れている児童には、文字のフォントや色の変え方も教えた。Canva は画像の種類が豊富で、自由に画像を使用できるので、子どもたちも自分の思い描くデザインにすることができた（図2）。共同で編集していくことで、教師側が子どもたちの過程を把握して指導することができる。

一方で、子どもたち同士も他の児童のページを操作することができるため、操作が慣れないうちは他の子のページを消してしまうということもあった。そのため、終わった児童はページにロックをかけて編集されないようにする指導も行った。Canva に関わらず、共同編集をする際のルールやマナーについては、事前指導が必要である。教師側で「編集モード」「閲覧モード」の切り替えができるため、授業外では操作できないように設定するとよい。全員の編集が終わったら、PDF 形式でダウンロードし、すぐに一括で印刷し、完成とした。



図2 児童の作品

②友達同士の作品の鑑賞

図画工作科では、友達同士の作品の鑑賞を Canva で行った。①と同様に型を作り、画像を挿入させたり、工夫したところを入力させたりして作成も可能だが、ここではロイロノートで作品カードを作成し、それを Canva に送る形で行った。鑑賞カードをデジタルにすることで、記録として残すことができ、評価を付ける際にも残すことができて便利である。ここでの Canva の良さは、お互いにコメントを送る機能があることである。コメントを紙に書いて渡したり、相手の紙やノートに直接書きに行ったりして送り合う従来の方法では、誰がどんなコメントを書いているのかを教師側が把握しづらいが、Canva で送り合うことで、教師側でコメントが把握でき、どんな良さに気づいているのかを捉えることができた。コメントをもらった側も自分では気づかなかった良さに気づき、喜びを感じるとともに、コメントをくれた友達にも返そうという意識が生まれ、良さを伝え合う楽しさを感じることができた（図3）。この時は初めてコメントを送り合ったため、あまり深まったコメントになっていないが、この活動を継続してきた結果、具体的なコメントができたり、全員にコメントを送ることができたりしている。スタンプ機能があり、表現の幅が広がる一方で、適当に送ってしまう児童もいるので、鑑賞文の書き方について事前に指導が必要である。

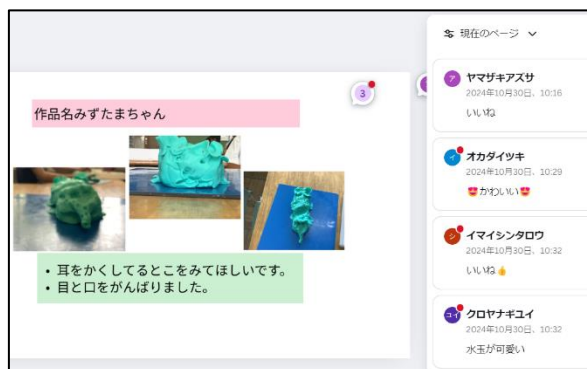


図3 作品カードへのコメント

(2) 校務での Canva の活用

校務では、主に学級通信を作成する際に使用した。Canva には豊富なテンプレートがある。「学級通信」と検索すると、たくさんのテンプレートが出てくる(図4)。その中から自分のイメージに合ったテンプレートを選んで編集をしていけば、一からデザインを考えることなく、簡単に学級通信を作成することができる。画像も豊富にあるため、季節や行事に合わせて画像を検索し、挿入することも簡単にできる。

また、Canva では、「公開閲覧リンク」を作成することができる。校外学習など、たくさんの写真を撮影しても、一部しか載せることができなかったが、Canva の「公開閲覧リンク」を使うと、作成したページを一定期間閲覧することができるようになる。事前に1ページに1枚ずつ写真を挿入していき、写真をたくさん張り付けたスライドを作る。このスライドの「公開閲覧リンク」をコピーし、QRコードを作成して学級通信に載せると、保護者のスマートフォンなどから写真を見ることができる(図5)。同様に動画も載せることができるので、町探検のグループ発表を載せたり、かさこじぞうの音読を載せたりもした。保護者に学校での子どもの様子を伝えることができるのと同時に、写真を厳選して、レイアウトを考える必要もないので、時短になる。「公開閲覧リンク」は、こちらのタイミングで削除できるため、いつまでも写真が残ることがないのも良い点である。



図4 「学級通信」のテンプレート



図5 「公開閲覧リンク」の画面

5. 成果と課題

(1) 成果

- 多くのテンプレートから作成することができるため、児童は簡単にきれいな作品を作ることができる。また、教師はお便りや掲示物などの作成する時間も短縮することができた。
- 共同編集を活用することで、教師側が児童の学習の様子を把握することができ、指導や支援を行いやすかった。
- お互いにコメントを送り合うことで、認め合う素地が育まれ、それが学習意欲を高めることにも繋がった。
- 学級通信に写真や動画を載せることで、保護者に学校の様子を詳しく伝えることができ、保護者と学校の信頼関係の構築に繋がった。
- オンラインツールのため、タブレット端末で撮影した写真などをすぐに使用したり、隙間時間に教室などでも簡単に編集できたりなど、業務の効率化ができた。

(2) 課題

- テンプレートが多くあり、きれいに作品ができるようになったため、学習の目的や評価基準をより明確に示して作品作りを行わせる必要がある。
- 共同編集を行う際には、児童の規範意識が必要になる。友達作品は勝手にいじらないことや相手を傷つける言葉を使わないなどのルールやマナーをしっかりと指導した上で、取り組ませなければならない。
- 「公開閲覧リンク」を活用する際には、個人情報保護の観点もあるので、管理職へ相談の上、ルール作りが必要になる。画像などを保存することはできないが、スクリーンショットは防ぐことはできないので、保護者の規範意識も大切である。そのため、事前に「閲覧専用のため、SNS 等への使用はお控えください」のような告知をしている。
- Canva の基本的な使い方は身に付けなければならないため、他のツールを使用しながら新しいことを覚えるのに消極的な教員が取り残されないよう、ミニ研修などを行い、Canva を使用することのハードルを下げるようにして、取り組みやすい環境を提供する必要がある。